

抹茶に沸く茶生産を直撃するイラン情勢

研究員 山本裕二

相場が上昇し、経営状況の回復が期待されている茶生産の現場にイラン情勢が直撃している。茶葉の乾燥に使う重油の価格が上昇し、経営費が増加しているためだ。煎茶よりも重油の使用量が多い抹茶原料への転換が進み、今後はより燃油の価格動向が経営を左右する展開となりそうだ。

1 茶作経営における光熱費

茶は他の農産物に比べて光熱費の負担が大きい。茶工場で茶葉を乾燥させる必要があり、その際に重油を使うためだ。この一次加工は収穫後に速やかに行うことが質の高いお茶づくりにつながるため茶園を持つ農家が担うことが多い。農林水産省の「営農類型別経営統計」によると、茶作経営の農業経営費に占める動力光熱費の比率は2024年時点で13.2%と全農業経営体(全国平均)の5.9%より高い。

近年、茶工場で使用する熱源として重油からガスへの転換が進みつつある。しかし、ガス供給のインフラ整備が課題となり現在も多くの茶工場が重油を使用している。

2 イラン情勢による重油価格高騰の影響

重油価格が上昇している背景にはイラン情勢がある。米国やイスラエルによる攻撃に対し、イランは3月にホルムズ海峡を海上封鎖した。当海峡は世界の海上石油貿易量の25%が通る重要な航路であり、日本が輸入する石油の大半がこの海峡を通る。

世界経済にとっての大動脈ともいえるホルムズ海峡が封鎖されたことによって、石油タンカーの通航が滞り、石油の供給不安が高まった。その結果、原油相場が高騰し原油を原料とする重油の価格も上昇した。経済産業省資源エネルギー庁によると農業などの産業に使用されるA重油の小型ローリー価格は4月時点で1リットル当たり139円と年初より3割上昇している(第1図)。

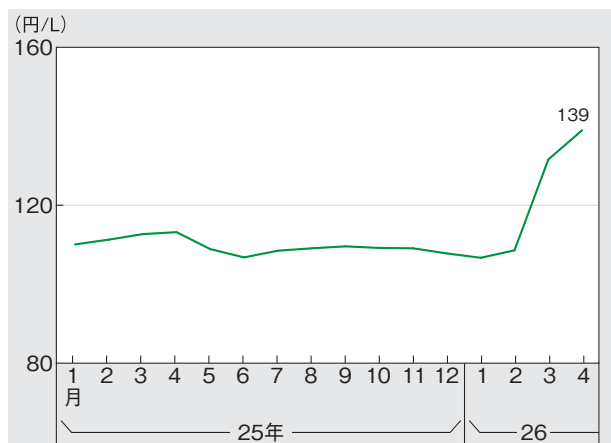
ホルムズ海峡は6月に入っても事実上封鎖されており、通航量は激減している。国際通貨基金の「ポートウォッチ」によると5月末時点の当海峡の通過貿易量(7日間移動平均)は前年に比べ98.4%減少しており、依然として正常時には戻っていない。そのため重油価格に上昇圧力がかかりやすい状況は続いている。

3 燃油価格補填事業への加入状況

重油価格の上昇は茶作経営に響くため茶農家の負担を軽減する「茶セーフティネット構築事業」が15年から始まっている。当事業は3戸以上もしくは農業従事者5名以上の農業者団体などが支援対象となる。参加団体は工場当たりの燃料使用量を3年間で15%以上減らす目標とそのための取組みを設定する。このように当事業は茶農家に対して支援するだけでなく、燃油価格高騰の影響を受けにくい経営への転換を促す目的もある。

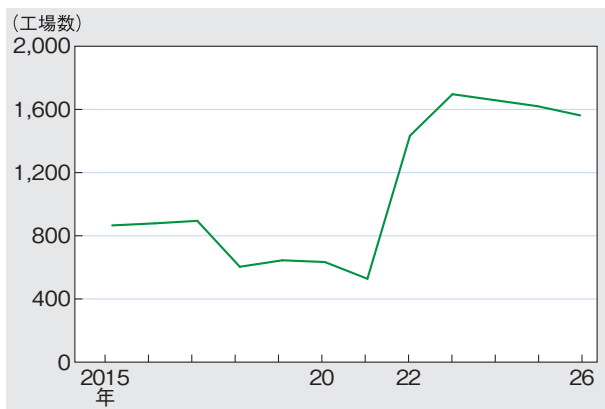
また、補填金は生産者と国が1対1の比率で積み立て、燃料価格が基準価格を超えた場合に補填が発動する。例えばA重油は農林水産省の「農業物価統計調査」の全国平均小売価格を基に基準価格が設定され、価格が基準を超えた場合に当該月の購入数量の7割につ

第1図 A重油の価格推移(小型ローリー)



資料 資源エネルギー庁「石油製品価格調査」から作成

第2図 茶セーフティネット構築事業への参加工場数



資料 全国茶生産団体連合会の資料から作成

いて、その差額分が補填金として支払われる。さらにもう一段階上の急騰特例価格もあり、A重油価格がこれを超えた場合は購入数量の全量について、その差額分が補填の対象となる。

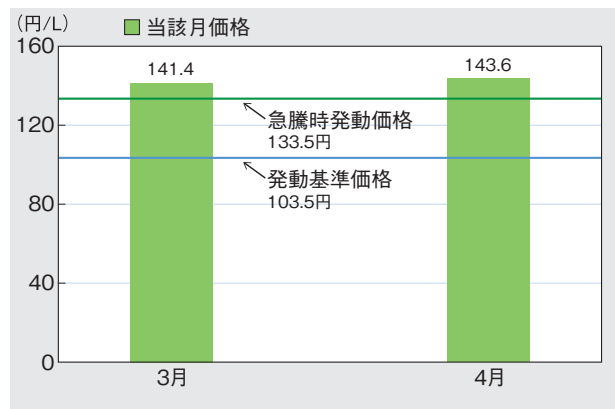
燃油価格の上昇を背景に当事業への参加農業者団体は増えている。ロシアがウクライナを攻撃し、石油の供給不安が高まった22年に加入数は急増し、26年時点には参加団体に紐づく茶工場は1,500超となった(第2図)。

足元で重油価格は上昇しており、茶農家への補填が実施される見通しだ。「農業物価統計調査」によるとA重油の価格は4月時点で1リットル当たり143.6円であり、26年の基準価格である103.5円と急騰特例価格の133.5円を超えている(第3図)。

しかし、茶農家の負担が完全に無くなるわけではない。当事業に参加する際に茶農家は事前に積み立てコースを選択する必要があり、燃油高騰が長期化した場合、コースによっては積立残高が途中で尽きてしまい、補填を受けられない可能性もある。

また、事前抛出に伴う資金繰りへの影響も無視できない。積立金は春ごろに予め抛出する必要があり、この時期は一番茶に向けた肥料の購入費用など他の生産資材への出費も発生する。また、経営規模が大きければ周囲の茶園から茶葉を集荷して加工する場合もあり、その際茶葉の調達費も必要となる。したがって、当事業は燃油価格の高騰に対する防波堤としての機能はあるものの茶農家の経営

第3図 2026年のA重油価格の推移と補填発動基準



資料 農林水産省「農業物価統計調査」、全国茶生産団体連合会の資料から作成

状況や規模によっては参加が難しくなることや資金繰りが課題となることがある。

4 抹茶生産に沸く茶生産への懸念

このようにイラン情勢を背景とした重油価格の上昇は抹茶需要に期待が集まる茶業界に水を差す格好となっている。全体の生産量が減るなかで、輸出の増加と煎茶から抹茶原料である碾茶への転換が進んだ結果、25年は茶の需給がひっ迫し相場が高騰した。そのため茶農家の収入は増えたが、重油価格の上昇は経営費の増加につながり茶農家の利益を圧迫してしまう。

さらに、今後は茶生産がますます重油価格に左右される構造となりそうだ。多くの産地で煎茶から碾茶への転換が進んでおり、碾茶は製造工程で煎茶と比べ多くの重油を使う。碾茶の製造には煎茶と異なり揉む工程がないためその分乾燥しづらく、温度を上げる必要があるためだ。京都府茶業会議所の「荒茶製造における費用高騰調べ(令和2年と4年の比較)」では、1kgの碾茶を作るために必要な重油に要する費用は煎茶の3倍程度となっている。したがって、碾茶生産の拡大によって日本の茶生産がより重油価格の変動に対して脆弱になる懸念もある。

25年の収入増加で生産意欲が高まった茶農家も多い。省エネルギー型の加工施設など持続的な生産を見据えた投資が求められる。

(やまもと ゆうじ)